

令和 7 年度

事業概要

(令和 6 年度実績)

山梨県立こころの発達総合支援センター

はじめに

令和 7 年度の事業概要をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

山梨県立こころの発達総合支援センター（以下、ここセン）は、発達障害や子どものこころの健康に関する課題に向き合いながら、相談・診療をはじめとする支援体制の充実に努めてまいりました。ここセンでは、専門スタッフによる相談支援、専門医による医療の提供、利用者向けの学習会、支援者向けの研修など、多面的な支援を行っています。地域の皆様や関係機関のご協力のもと、支援の輪を拡げ、さまざまな発達特性や背景を持つ方々とそのご家族に対して、信頼関係を築いてまいりました。

開設当初は、「発達障害とは何か？」という認識がようやく広まり始めた時期であり、支援機関の方から「とりあえず、ここセンに相談に行って」と言われたという声を聞くことが、しばしばありました。しかし、ニーズの高まりや限られた体制の中で、まもなく対応が難しくなっていました。現在では、市町村の母子保健・子育て支援・障害福祉が一次相談の窓口となり、保育園・幼稚園・学校・児童発達支援機関・障害支援機関・地域の小児科医など、多様な支援者による体制が整いつつあります。すべての人が多様性を認められ、必要な支援を受けながら地域で生活できる『共生社会』の実現が求められる中、ここセンでは『相談』『診療』『地域支援』『普及啓発』の 4 つを柱に、15 年間にわたり業務を展開してきました。今後は、二次支援という視点も持ちながら、発達障害児・者やこころに課題を抱える子どもたちが安心して地域で過ごせるような、体制整備を進めていければと考えています。また、公設公営の発達障害者支援センターとして、県民の皆様のニーズに応え、「何をすべきか」「何ができていないのか」「何ができるのか」を問い続けながら、より効果的な支援のあり方を模索していきたいと考えています。

最後になりますが、当センターの活動にご理解とご協力をいただいております皆様に、心より感謝申し上げます。引き続き、一人ひとりとの出会いを大切にしながら、小児期のみならず、思春期から成人期までを見据えた福祉・医療の実践に努めてまいります。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 10 月 1 日

山梨県立こころの発達総合支援センター 後藤 裕介

目 次

第1部 こころの発達総合支援センターの概要

1 沿革	1
2 施設	2
3 組織図・職員構成	4
4 業務内容	5
5 利用の流れ	6

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談件数	7
--------	---

診 療

1 診療体制	12
2 診療状況	13
3 発達障害医療支援体制整備事業	15
4 ショートケア	16

地域支援

1 支援プログラム	18
(1) 幼児集団療育	
(2) 学齢期集団療育	
(3) 成人期集団療育	
(4) ペアレントサポートプログラム	
(5) 養育者セミナー	
(6) ストレスマネジメント研修	
(7) 発達支援リーダー養成プログラム(発達支援リーダー養成研修)	
2 技術支援	25
(1) 関係者コンサルテーション	
(2) 市町村療育支援	
(3) 発達障害者支援センター連絡調整会議	
(4) 地域支援体制サポート事業	
(5) 関係機関との連絡調整会議	
(6) 会議等への参加	

研修・普及

1 人材育成	29
(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業	
(2) 発達障害研修事業	
(3) 講師派遣	
(4) 視察研修受け入れ	
2 調査研究	33
3 広報・普及	34
(1) パンフレットの作成等	
(2) 図書及び視聴覚機材の貸出	

第 1 部 こころの発達総合支援センターの概要

1 沿 革

発達障害者支援法第 14 条及び第 19 条の規定に基づき、山梨県立こころの発達総合支援センター設置及び管理条例により設置された。

平成 17 年 4 月 1 日 児童福祉施設や学校等において、被虐待児、発達障害児などによる処遇困難事例が増加する中、発達障害の診断・支援を行うことができる専門機関の設置を県に義務づける発達障害者支援法が施行された。

平成 18 年 4 月 1 日 中央児童相談所内に子どもメンタルクリニックが開設されるとともに、障害者相談所内に発達障害者支援センターが設置された。

平成 22 年 1 月～8 月 子どもの心の問題・医療等の相談の拡充に伴い、クリニックの機能強化が望まれる中、幼児期から成人期に至るまでの相談・診断等を総合的かつ一体的に支援できる体制整備が求められた。これを受け、子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターの再編に向け、庁内検討会及びワーキンググループが設置された。

平成 22 年 8 月～12 月 山梨県福祉プラザ改修工事

平成 23 年 1 月～3 月 センターの開所準備

平成 23 年 4 月 1 日 子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターが統合され、山梨県立こころの発達総合支援センターとして開所。

令和 2 年 4 月 1 日 山梨県福祉プラザ内（甲府市北新）から山梨県子どものこころサポートプラザ内（甲府市住吉）へ移転。

2 施 設

(1) 場所

山梨県甲府市住吉 2 丁目 1 番 17 号（子どものこころサポートプラザ内）

(2) 建物

鉄筋コンクリート造 2 階建

(3) 案内図



《電車》

JR 身延線「甲斐住吉駅」から徒歩 3 分

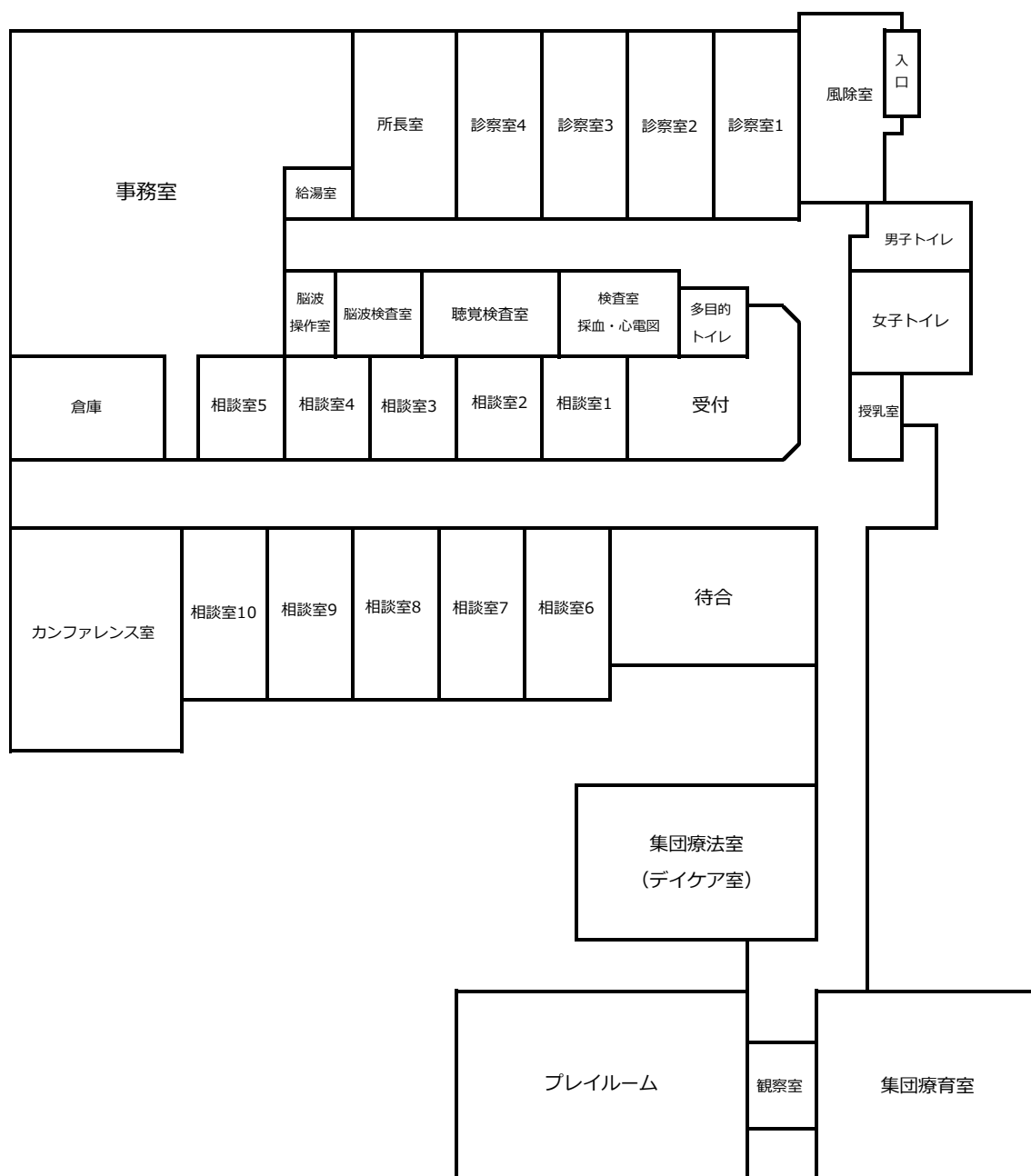
《バス》

甲府駅南口 3 番乗り場から「小瀬スポーツ公園行き」に乗車し、「甲府職業安定所」下車（約 16 分）、徒歩 1 分

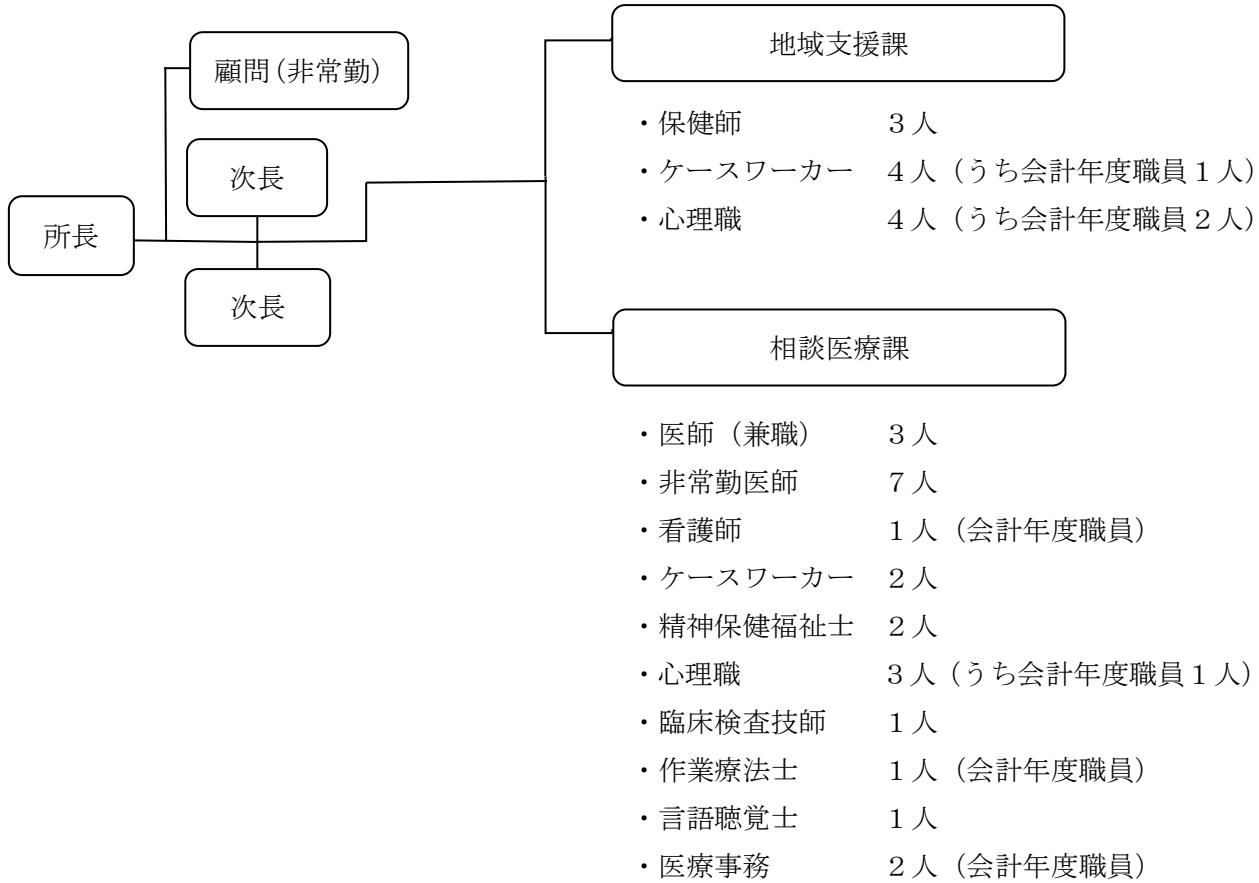
《車》

甲府バイパス（国道 20 号線）の「中小河原交差点」を甲斐市方面から左折（笛吹市方面から右折）し、約 0.6 km（約 1 分）

(4) 見取図



3 組織図・職員構成《令和6年度》



4 業務内容

(1) 相談支援

本人や家族等からの相談に応じ、本人の特性や対処法を正しく理解できるように個別対応及び支援プログラムを行う。

- ・発達支援

本人の特性や対処法を理解し、適切な支援を行う。

- ・就労支援

本人に適した就労を支援する。

- ・家族支援

家族に対し、必要な知識や情報、悩みが共有できる場を提供する。

(2) 診療

子どもの心の問題や発達障害について、小児科医及び精神科医による診療を行う。

- ・診断

生育歴の聞き取り、本人・家族との面接、検査結果等の情報を合わせて、医師が総合的に判断する。

- ・治療

必要に応じて、薬物療法や心理療法を行う。

- ・検査

心理発達検査や血液検査、脳波検査、心電図検査、聴力検査等を適宜行う。

- ・ショートケア

心の問題により社会に適応しにくい子どもに対し、集団活動や余暇活動を行う。

(3) 地域支援

本人や家族が身近な地域でより良い支援が受けられるよう、関係機関と連携を図るとともに、地域における支援体制を整備する。

- ・関係機関との連携（関係者コンサルテーション含む）

地域の支援者が抱える課題や問題に対して、助言や情報提供等を行う。

- ・支援プログラムの普及

ライフステージや発達の特性に応じた集団プログラムを実施し、地域支援者に対し啓発する。

- ・地域支援体制の整備

発達障害者地域支援マネジャーの配置や小児科医及び精神科医との連携等により、地域における支援体制を整備する。

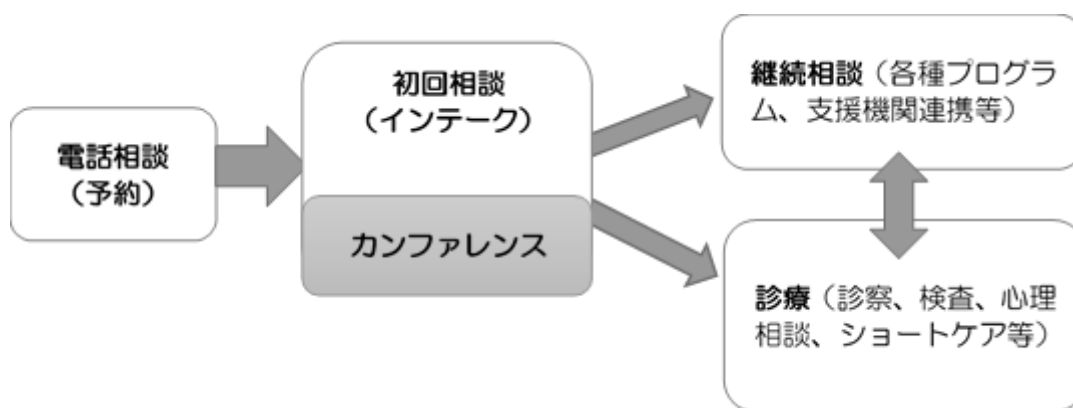
(4) 研修・普及

子どもの心の問題や発達障害に関する研修等を通じて、人材育成や発達障害に関する正しい理解の普及啓発に取り組むとともに、調査研究を進める。

- ・人材育成（研修会等の開催）
- ・調査研究の実施

5 利用の流れ

本人または家族等からの電話にて相談を受け付ける。その後、当センター担当者からの電話等により、初回面接（インテーク）日を決める。来所による初回相談（インテーク）を行い、カンファレンスにより支援の方向付けを行った後、継続相談や診療に繋げる。



・対象

18 歳未満の子どものこころと発達に関する相談全般及び成人の発達障害に関する相談を受け付けている。

・受付方法

相談・診療は完全予約制。本人または家族等からの電話で受け付ける。

・相談場所

子どものこころサポートプラザ内（月～金）

南都留合同庁舎内（診察：毎週火、第1・第3金 相談：毎週火、第1・第3金）

・診察場所

（子どものこころサポートプラザ内）こころの発達総合支援センター甲府クリニック

（南都留合同庁舎内）こころの発達総合支援センター都留クリニック

・費用

相談は無料。診療・ショートケアは保険診療となる。

第 2 部 業務の実施状況

相談支援

令和 6 年度の相談件数は実 1, 897 件、延 4, 195 件で、このうち新規面接相談は 422 件であった。

(1) 相談者数

(単位：件)

電話	来所			訪問	関係者コンサルテーション	合計
	甲府	都留	ふれあい			
1, 144	2, 467	178	0	25	381	4, 195

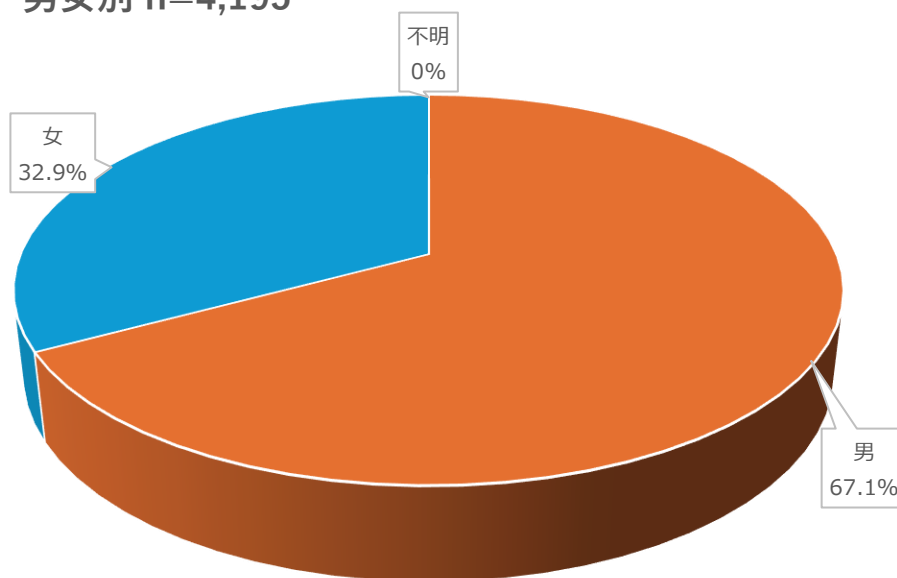
(2) ケース別

(単位：件)

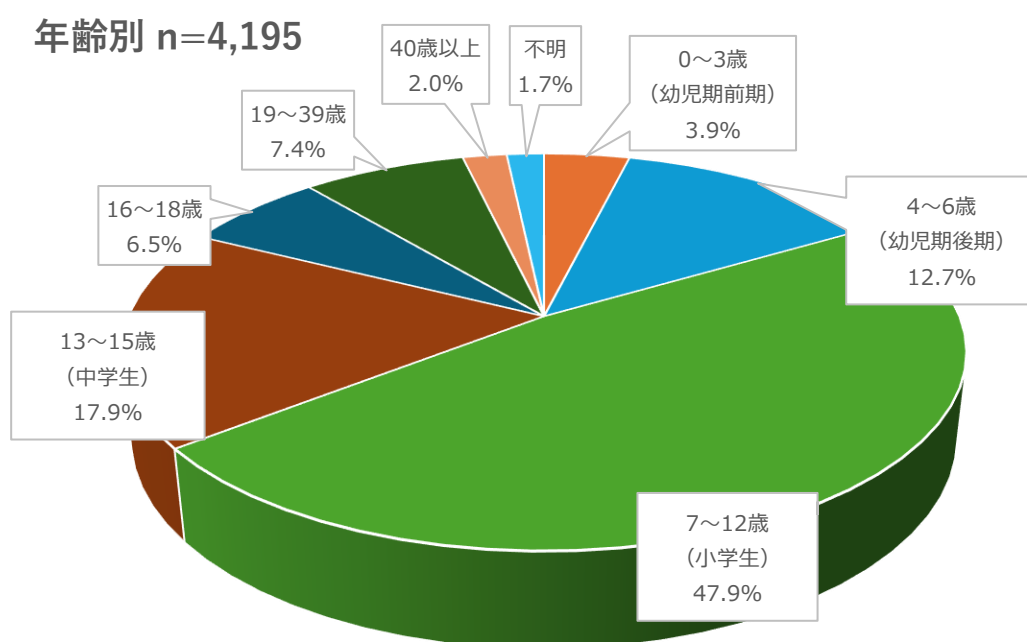
発達障害ケース	子どものこころケース*	*発達障害や発達の問題に関わる相談以外のケース (発達以外の相談であっても発達障害、あるいは発達の問題があるケースはここには含まない)
3, 838	357	

(3) 男女別

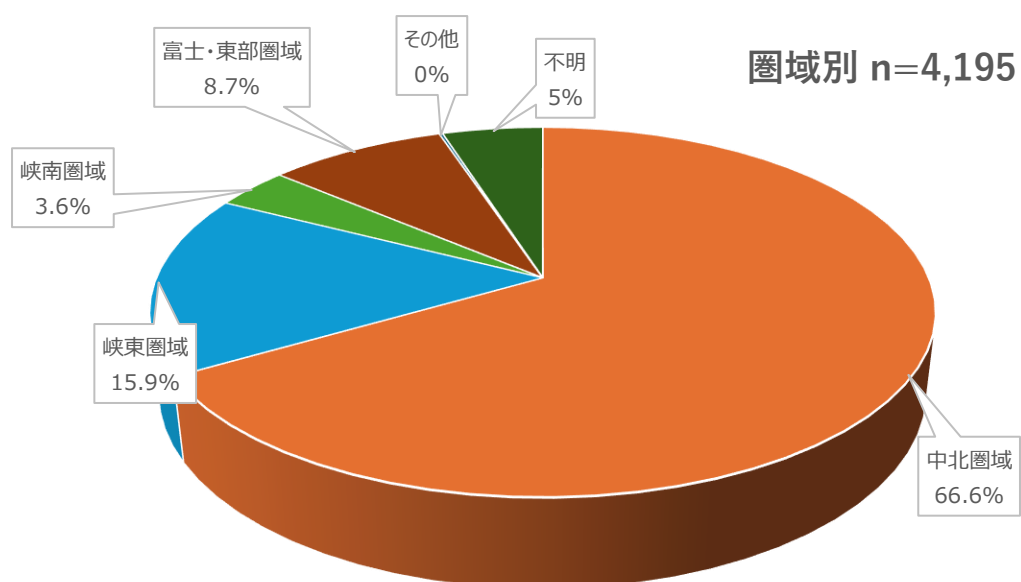
男女別 n=4,195



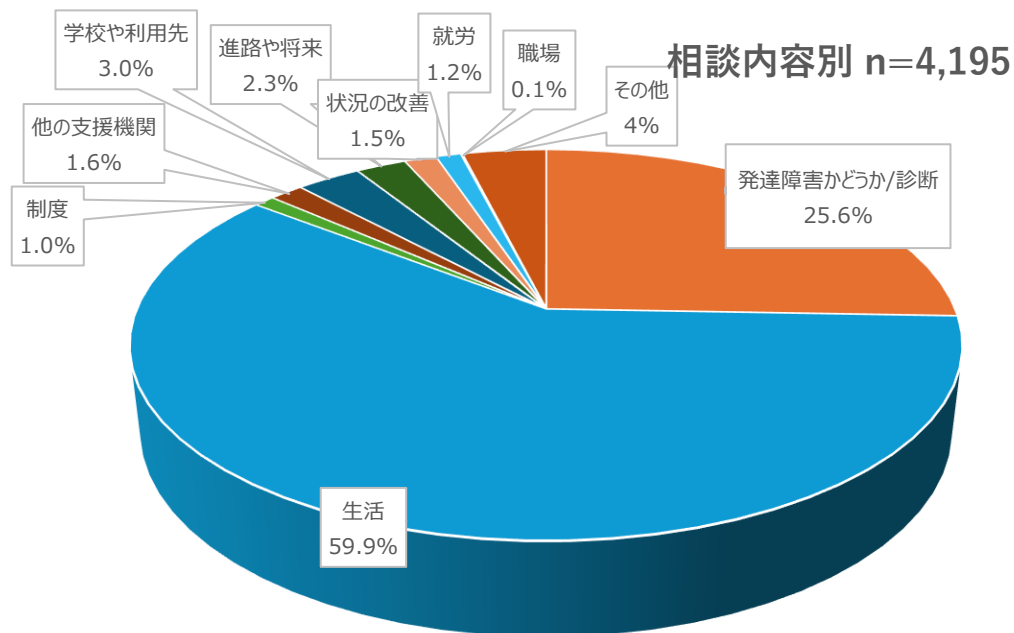
(4) 年齢別



(5) 圏域別



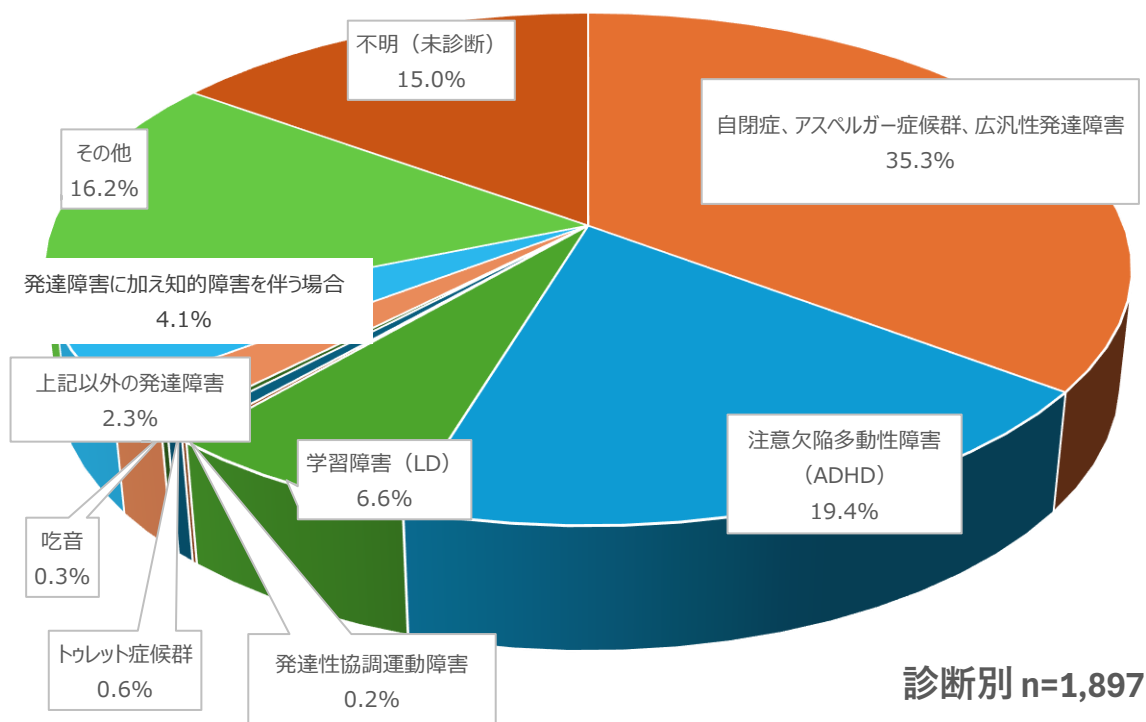
(6) 相談内容別

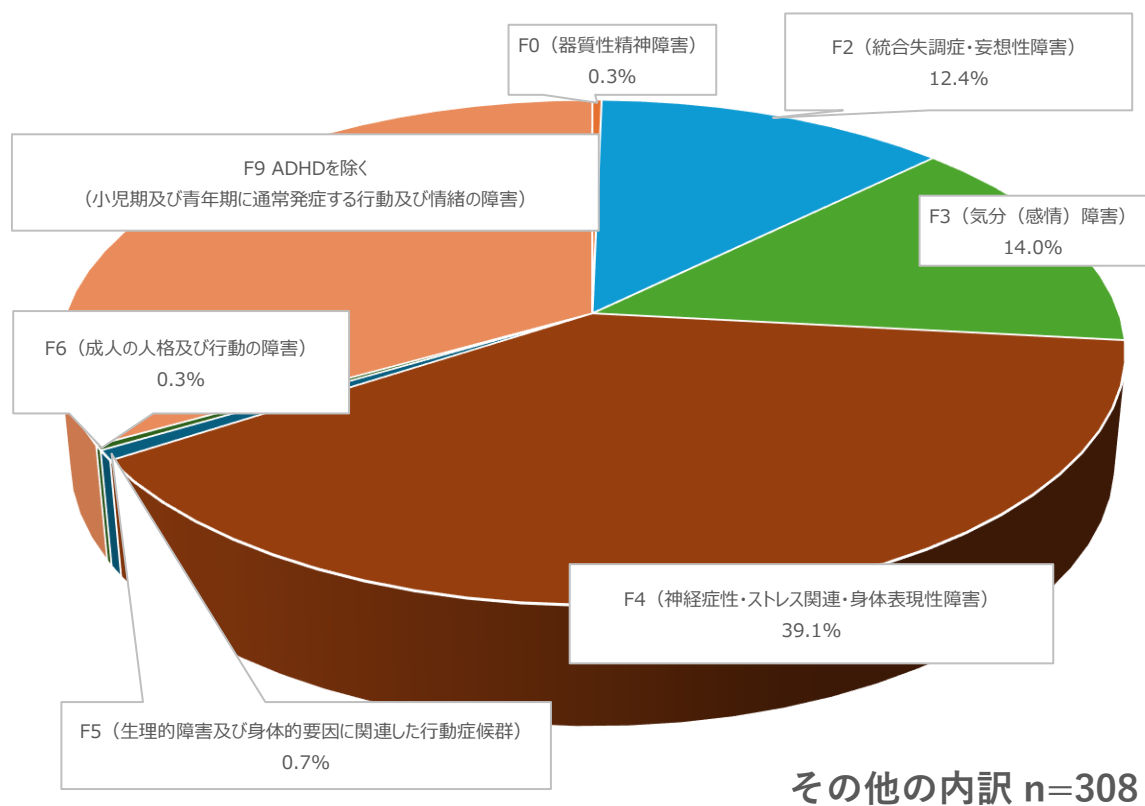


(7) 診断別

* その年度に支援した相談対象者の実支援人数で計上

(医師による診断名でカウント、複数診断の場合は重複あり)





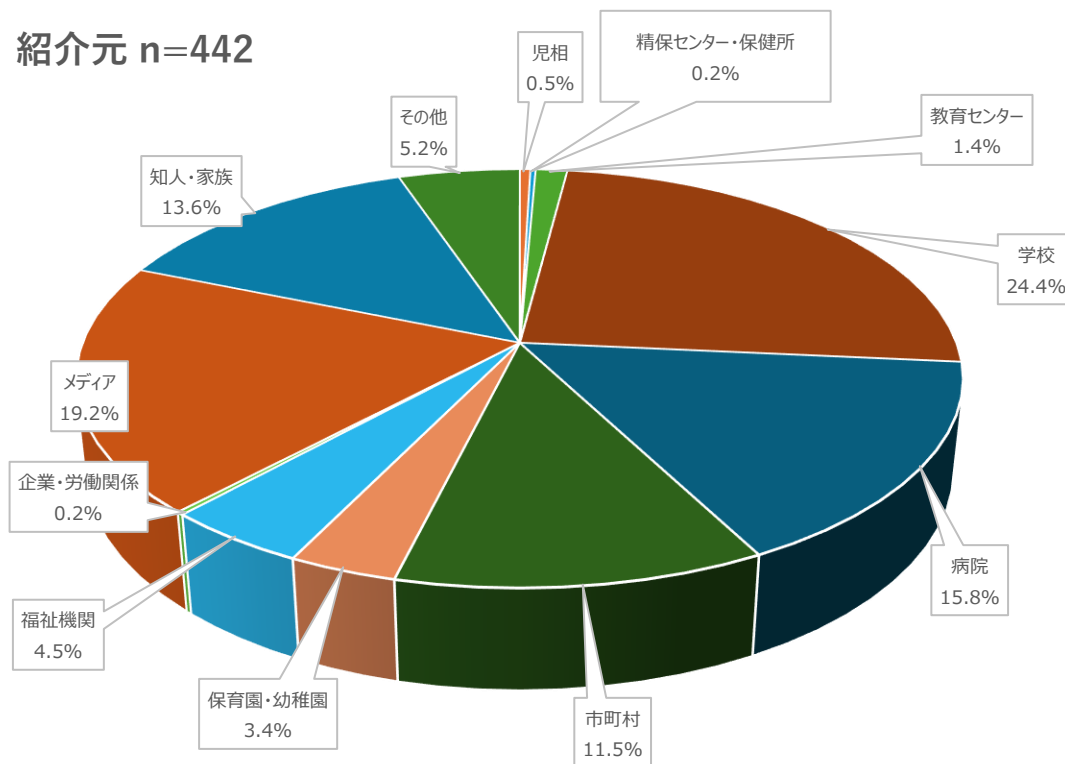
(8) 新規面接相談の内訳

(単位：件)

		合計	ケース別		男女別		年齢別					
			発達障害 ケース	子どものこ ころケース	男	女	0～3 歳	4～6 歳	7～12 歳(小学生)	13～15 歳(中学生)	16～18 歳	19歳以上
令和 6 年度	甲府	395	363	32	276	119	26	68	208	57	14	22
	都留	47	45	2	26	21	1	5	22	10	4	5
	合計	442	408	34	302	140	27	73	230	67	18	27
前年度		441	398	43	266	175	42	75	205	77	17	25

(9) 新規面接相談の紹介元

紹介元 n=442



1 診療体制

また、県内の診療対応力の向上と受け皿の充実を図ることを目的として、発達障害及び子どものこころの診療に携わる他の医療機関との連携・情報交換、研修生の受け入れを行った。

甲府クリニック	場 所	子どものころサポートプラザ内 (こころの発達総合支援センター)
	管 理 者	金重 紅美子
	診療時間	午前 9 時 30 分から午後 4 時 00 分

	月	火	水	木	金
精神科					
田中 哲				○	
金重 紅美子	○		○		○
上村 拓治				○	
塩江 理沙			○ (6 月まで)		
渡邊 慎太郎			○ (7 月から)		
小児神経内科					
相原 正男		○ (第 1・3)			
後藤 裕介	○		○		
加賀 佳美		○ (第 1・3・5)		○	○ (第 2・4)
反頭 智子				○ (第 1・2)	
大山 哲男			○ (第 3)		
石井 佐綾香				○ (第 3)	
青柳 閣郎				○ (第 4)	
薬袋 周	○				
深尾 俊宣					○ (第 2)

都留クリニック 場 所 南都留合同庁舎内
 管 理 者 後藤 裕介
 診療時間 午前 9 時 30 分から午後 3 時 00 分

《令和 6 年度診療体制》

	月	火	水	木	金
精神科					
金重 紅美子		○ (第 1～4)			
小児神経内科					
後藤 裕介					○ (第 1・3)

2 診療状況

(1) 受診者総数推移

(単位：件)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新規診察	322	321	360	298	228	247	407	415	427	422	440
再診	1,608	1,771	1,918	2,020	1,912	1,740	1,987	2,314	2,727	3,029	3,204
ショートケア	22	13	21	28	23	21	62	57	46	39	39
合計	1,952	2,105	2,299	2,346	2,163	2,008	2,456	2,786	3,200	3,490	3,683

*新規診察とは、初診と再初診のこと。

*算出方法等を R6 年度 (R5 年度実績) より変更したため、R5 年度までの表記とは異なる部分がある。

(2) 受診者と診療形態

【甲府クリニック】(ショートケアを除く。)

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初診	22	34	40	35	27	27	39	39	38	32	36	36	405
再診	222	256	232	267	232	240	263	253	246	267	208	255	2,941
合計	244	290	272	302	259	267	302	292	284	299	244	291	3,346

【都留クリニック】

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初診	2	5	1	4	3	3	2	3	3	3	2	4	35
再診	17	19	20	23	22	20	27	25	23	19	20	28	263
合計	19	24	21	27	25	23	29	28	26	22	22	32	298

(3) 年度初診者の状況

甲府・都留クリニック 年齢帯別内訳

(単位：人)

	0-3 歳	4-6 歳	7-12 歳	13-15 歳	16-18 歳	19-39 歳	40 歳以上	計
甲府	21	82	181	70	17	22	12	405
都留	3	3	15	11	1	1	1	35
計	24	85	196	81	18	23	13	440

診断分類別割合

(単位：人・%)

	甲府		都留		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自閉症、アスペルガー症候群、 広汎性発達障害	228	56.3%	22	62.9%	250	56.8%
注意欠陥多動性障害 (ADHD)	127	31.4%	8	22.9%	135	30.7%
学習障害 (LD)	62	15.3%	5	14.3%	67	15.2%
発達性協調運動障害	3	0.7%	0	0.0%	3	0.7%
トゥレット症候群	4	1.0%	1	2.9%	5	1.1%
吃音	1	0.2%	1	2.9%	2	0.5%
上記以外の発達障害	22	5.4%	3	8.6%	25	5.7%
発達障害に加え知的障害を伴う場合	27	6.7%	2	5.7%	29	6.6%
F0 (器質性精神障害)	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%
F2 (統合失調症・妄想性障害)	36	8.9%	2	5.7%	38	8.6%
F3 (気分 (感情) 障害)	42	10.4%	1	2.9%	43	9.8%
F4 (神経症性・ストレス関連・身体表現性障害)	111	27.4%	9	25.7%	120	27.3%
F5 (生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群)	2	0.5%	0	0.0%	2	0.5%
F6 (成人の人格及び行動の障害)	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%
F9 ADHDを除く (小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害)	82	20.2%	20	57.1%	102	23.2%
不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
受診患者数	405		35		440	

*その年度に受診した初診患者数の実支援人数で計上

(医師による診断名でカウント、複数診断の場合は重複あり)

3 発達障害医療支援体制整備事業

(小児科連携)

発達障害の早期把握・早期支援を行うため、発達障害のある子どもが地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした医療ネットワークの構築を行う。

【山梨県子どもの発達を考える医療連携会議】

- ・ 日 時：第1回 令和6年 7月10日（水）午後7時～
第2回 令和6年 9月 4日（水）午後7時～
第3回 令和6年11月13日（水）午後7時～
第4回 令和7年 1月24日（水）午後7時～
- ・ 対象者：こころの発達総合支援センターとの診療連携に賛同する県内小児科医等
- ・ 内 容：診療における現状・課題の整理及び共有、症例検討
診療マニュアルの活用の促進、診療連携パスの運用と評価・見直し
こころの発達総合支援センターを中心とした診療ネットワークの検討

【発達障害医療支援体制整備事業研修会】

- ・ 日 時：令和7年3月12日（水）午後7時～8時45分
- ・ 参加者：県内の小児科医等 40名
- ・ 内 容：「5歳児健診のトリセツ～これからはじめる発達診療～」
- ・ 講 師：埼玉医科大学総合医療センター小児科 是松聖悟 教授

(精神科連携)

発達障害者の地域支援を充実させるため、発達障害のある大人が地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした地域の精神科医及び精神科医療機関との診療ネットワークを構築する。

【山梨県発達障害のための精神科医療連携会議】

- ・ 日 時：第1回 令和6年 8月26日（月）午後7時～
第2回 令和6年10月31日（木）午後7時～※
第3回 令和7年 2月21日（金）午後7時～
- ・ 内 容：診療における現状・課題の整理及び共有、症例検討
こころの発達総合支援センターを中心とした診療ネットワークの検討
(第2回)
内容：「成人期の精神発達症の診療」
講師：信州大学医学部子どもの発達医学教室 本田秀夫 教授
- ・ 構成機関（団体）：
山梨県精神科病院協会加盟病院、山梨県精神神経科診療所協会、
山梨県立北病院、山梨大学医学部附属病院

4 ショートケア

こころの問題や発達特性などを持ち、不登校等社会に適応しにくい状況をきたす対象者に対して、心身の健康維持を図ること、社会生活を営む上で必要な生活技能や適応能力の獲得と向上を図ることを目的として行った。

(1) 対 象

当センター甲府クリニックに通院中で、かつ、医師が必要と認めた者

(2) ねらい

長期的な治療プログラムとして位置づけ、安心して参加できる社会的な場を広げることとそのきっかけづくり

(3) 内 容

本人向けプログラムと家族講座の実施

【本人向けプログラム】

(小学生向けショートケア)

・身体プログラム

呼吸法、ストレッチ、ヨガほか

・ソーシャルプログラム

創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキルほか

(中・高生向けショートケア)

・身体プログラム

呼吸法、ストレッチ、ヨガほか

・ソーシャルプログラム

創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキルほか

【家族講座】

(小学生～中・高生向けショートケア)

・テーマ

体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、ストレスマネジメントほか

【実績】

(単位：回・人)

月 1 回 第 2 月曜日 13:00～16:00	実施期間	実施回数	人数	延べ人数
	令和 6 年 6 月～ 令和 7 年 2 月	9 家族講座は 3	4	16 家族講座 2

(中学生～高校生向けショートケア)

・テーマ

体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、ストレスマネジメント

【実績】

(単位：回・人)

月 1 回 第 4 月曜日 13:00～16:00	実施期間	実施回数	人数	延べ人数
	令和 5 年 6 月～ 令和 6 年 2 月	9 家族講座は 3	6	25 家族講座 0

地域支援

1 支援プログラム

幼児期から成人期までの年齢や障害特性に応じた支援プログラムを行うとともに、地域支援者に対して普及啓発を実施。

(1) 幼児集団療育

子どもが集団活動を通じて良い体験をするとともに、保護者が子どもの発達の特徴を理解し子どもに合った対応方法を知ることや、保護者同士の情報共有等を目的に、幼児集団療育を実施した。併せて、支援プログラムの開発を行うとともに、市町村保健師や保育士・幼稚園教諭等の支援者の見学を受け入れ、研修の場とした。

【ころころグループ】

- ・対 象：当センターに来所している幼児とその保護者で、集団活動に参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを理解できる保護者
- ・ねらい：子どもの発達の特徴への気づき及び子育て支援、集団場面における発達評価、市町村モデルのプログラム開発を行う
- ・内 容：親子参加型療育と親ミーティング
- ・回 数：1 クール 7 回 年 3 コース
- ・実 績 (単位：回・組)

	実施期間	実施回数	人数 (親子数)	延べ人数 (延べ親子数)
1 クール	令和 6 年 10 月 18 日 ～12 月 6 日	7	5	23
2 クール	令和 7 年 1 月 10 日 ～2 月 28 日	5	4	19
年長 1 クール	令和 6 年 5 月 10 日 ～6 月 28 日	7	4	16

※2 クールは対象者の欠席のため 2 回実施せず、全 5 回の実施。

【わくわくグループ】

- ・対 象：ころころグループに参加したことのある年長児とその保護者または過去にわくわくグループに参加した現在小学生の子どもの保護者
- ・ねらい：就学・就学後の支援
- ・内 容：保護者の交流会、親ミーティング、子どもグループ

・実 績

(単位：組)

	開催日 (期間)	人数 (子)	延べ人数 (親)
1 回目	令和 6 年 7 月 19 日	0	11
2 回目	令和 6 年 8 月 30 日	4	8
3 回目	令和 6 年 9 月 13 日	3	9

【幼児集団療育への見学受け入れ】

- ・対 象：関係機関職員
- ・ねらい：技術支援
- ・実 績：延 12 名（市町村保健師等）

(2) 学齢期集団療育

自閉スペクトラムの特性をもつ又は疑いのある児を対象に、特性をもつ同属性集団の仲間関係を経験するとともに、集団の中での心地よい体験や楽しい経験をする機会、主体的に考え行動する機会として行う。また保護者が子どもの特性について理解を深め、子どもに合った対応方法について考え成長の見通しを持ちながら、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことを目的とする。

・対象者：

当センターにおいて、集団プログラムが必要と認められる小学生（4～6 年）及び中学生（1～3 年）並びにその保護者

・ねらい

自閉スペクトラムの特性をもつ同属性集団での心地よい仲間関係を経験する機会、楽しい経験をする機会として行う。保護者については子どもの特性について理解を深め、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことを目的とする。

- ・内 容：集団療育グループ・講義とグループワーク 1 コース 2 回 年 1 回

・実 績

小学生

(単位：人)

開催日	対象	人数 (親子数)
令和 6 年 7 月 31 日	小学生とその保護者	5
令和 7 年 1 月 6 日	小学生とその保護者	4
令和 7 年 1 月 27 日	小学生の保護者	5
延べ参加者数 (親子数)	小学生とその保護者	14

中学生

(単位：人)

開催日	対象	人数 (親子数)
令和6年7月31日	中学生とその保護者	2
令和7年1月6日	中学生とその保護者	4
令和7年1月27日	中学生の保護者	5
延べ参加者数(親子数)	中学生とその保護者	11

(3) 成人期集団療育(発達障害者成人期就労準備性向上プログラム)

発達特性を持つ本人たちが就労を目指すにあたり、必要な知識を得たり自己理解を深めたり、同世代の相互交渉を経験したりする場として、講座を実施した。

また、保護者・家族向けと支援者向けにそれぞれ講座を実施し、正しい理解や特性に合った支援について学ぶ場を提供した。

【高校生対象プログラム、専門学生・大学生プログラム(キャリアプラン講座)】

- ・対 象：個別相談を継続している高校(特別支援学校を含む)・専門学校・大学在籍の学生
- ・ねらい：就労準備性の向上及び自己理解の促進
- ・内 容：講義・グループワーク
- ・実 績

(単位：回・人)

実施期間	対象	実施回数	参加者数	延べ参加者数
令和6年8月7日・8日	高校生	2	7	14
令和7年3月3日	専門学生 ・大学生	1	1	1

【就労定着支援プログラム】

- ・対 象：個別相談を継続している在職者
- ・ねらい：余暇時間の対人交流の機会と同属性集団の快体験の場の提供
- ・内 容：講義・グループワーク
- ・実 績

(単位：回・人・人)

実施期間	対象	実施回数	参加者数	延べ参加者数
令和6年6月28日 令和7年2月21日	在職者	2	各回4	8

【就労支援サポートプログラム】

I 保護者セミナー

- ・対 象：個別相談を継続している高等学校（特別支援学校を含む）在籍学生の保護者・家族
- ・ねらい：就労準備性を理解し家族として、就労へ向けの支援を考える
- ・内 容：講義・情報提供・質疑応答
- ・実 績 (単位：回・人)

開催日	実施回数	参加者数
令和6年10月1日	1	7

II 支援者セミナー

- ・対 象：大学生・専門学校の就職支援担当教職員
- ・ねらい：発達障害の理解を深め就労準備性を理解し今後の支援に生かす
- ・内 容：講義・質疑応答
- ・講 師：
やまなし若者サポートステーション統括コーディネーター 長谷川 和信氏
山梨県立こころの発達総合支援センター 次長 金重 紅美子
- ・実 績 (単位：回・人)

開催日	実施回数	参加者数
令和6年8月1日	1	24

(4) ペアレントサポートプログラム

子どもへの理解を深め、自ら問題に対応できる具体的な育児方法を学ぶことにより、子どもとの心地よい関係をつくり、二次的な問題を予防することを目的とする。また、人材育成とペアレントサポートプログラムの開発・検討を行う場として、関係職員への公開の研修も兼ねる。

- ・対 象：子ども（小学校低～中学年）のこころの問題や発達障害等で養育上の悩みを抱える保護者及び市町村保健師等で親支援に関わっている者
- ・内 容：子どもの行動分類、問題解決スキル、ストレスマネジメントなどを含むペアワークを取り入れたグループワーク
- ・講 師：ハーティック研究所 所長 高山 恵子 氏

・実 績

(単位：人)

開催日	内容	人数	
		保護者	関係職員
令和6年6月19日	子どもとの心地よい関係をつくるために	14	10
令和6年7月17日	コミュニケーションのコツと楽になる考え方	11	7
令和6年9月4日	気持ちをつたえる伝え方・ふりかえりとセルフトーク	9	8

(5) 養育者セミナー

発達特性やこころの育ちについて理解を深めながら、子どもに合った対応方法について考え、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことや親同士で情報の共有を図ること。また、専門職員のスキルアップ研修も兼ねる。

・対 象：幼児～高校生のお子さまの養育者

・内 容：1セミナーにつき、3回講義。今年度は、6月と2月に実施。

テーマ1 講演『発達障害と脳みその話』

講師 山梨県立こころの発達総合支援センター 所長 後藤 裕介

テーマ2 講演『子どものこころの育ちを理解する視点』

講師 山梨県立こころの発達総合支援センター 顧問 田中 哲

テーマ3 講演『自閉スペクトラムの子どもの育ちとその支援』

講師 山梨県立こころの発達総合支援センター 次長 金重 紅美子

・実 績

内 容	開催日	人数	
		保護者	関係職員
テーマ1	令和6年6月5日（水）	13	—
	令和7年2月5日（水）	24	—
テーマ2	令和6年6月12日（水）	12	—
	令和7年2月12日（水）	35	—
テーマ3	令和6年6月27日（木）	12	10
	令和7年2月27日（木）	27	—

(6) ストレスマネジメント研修

発達障害やこころの問題等特徴を持つ子どもの養育者は、特にストレスを抱えやすく、時には虐待につながったり、養育者の精神疾患を引き起こしたりすることもある。また、養育者のストレスが子どもの発達に影響を与えていることもある。本プログラムではこうした養育者のストレスを低減させ、養育者の安定を図ることにより、子どもの成長が保障されることを目的とする。

- ・対象者：子育て等による何等かのストレスを抱える、幼児から学齢期（中学生まで）の養育者で、参加目的や決まりが共有でき参加可能な方。
- ・内 容：リラクゼーション、講義、グループワークなど
- ・回 数：1コース6回 年1回
- ・実 績

(単位：人)

開催日	内容「子育て中のセルフケア講座」		人数
	リラクゼーション	学習	
令和6年9月19日	ストレッチでリラックス 深呼吸でリラックス	<講義> 講師 ハーティック研究所 所長 高山恵子氏 「セルフケアの基本～親子で幸せになるために大切なこと～」	6
令和6年10月16日	深呼吸でリラックス	自分らしく生きるために・ハッピーな時間を長くしましょう	4
令和6年11月20日	アロマでリラックス	子育てストレスを減らすヒント	4
令和6年12月18日	セルフケアとしてのヨガ 講師 こころの相談室 Tetote 嶋田あゆみ氏	プラスのシナリオ・セルフトーク	2
令和7年1月15日	セルフケアとしてのヨガ	アンガーマネジメント	6
令和7年2月6日	セルフケアとしてのヨガ 講師 こころの相談室 Tetote 嶋田あゆみ氏	<講義> 講師 ハーティック研究所 所長 高山恵子氏 セルフケアの基本（ふりかえり）	5
延べ参加者数			27

(7) 発達支援リーダー養成プログラム（発達支援リーダー養成研修）

ライフステージを通じた発達障害の基礎知識や支援技術、地域連携等について学び、地域において発達支援業務の中核を担い、関係部署との連携や体づくりに貢献できる人材の育成。

- ・対 象：発達障害に関する支援を中心に担っている（担うことが想定される）次の①～③の職員で希望する者
 - ① 市町村の母子保健または児童福祉または障害福祉を主管する課の職員
 - ② 障害児（者）地域療育等支援事業所の地域療育コーディネーター
 - ③ 特別支援学校の特別支援教育コーディネーター
- ・内 容：当センターが持つ知識や技術等を概ね6ヶ月間において提供する。所長をはじめ職員による講義や各種プログラム等を見学してもらうスタイルとし、基本研修6回に選択研修（一人が6回程度）を組み合わせ実施した。
- ・実 績：受講者16名
 基本研修として、心の育ちや子どもの発達支援、地域づくりに関する講義、発達障害者施策や当センター業務概要の説明、支援課題の明確化と今後の体制づくりを考えるグループ討議等を提供。選択研修として、診察同席や各年齢帯の集団療育プログラム、症例検討への参加、ライフステージに応じた発達支援に関する講義等を提供。

I 基本研修（必須）

開催日	内容
令和6年6月12日	開講式、オリエンテーション 講義①「発達障害と脳のはなし」 所長 後藤 裕介
令和6年8月22日	講義②「発達障害者施策と当センター業務の概要」 地域支援課長 山寺 秀美
令和6年8月29日	講義③「心の育ちを支えるコミュニティ」 顧問 田中 哲
令和6年9月26日	講義④「子どもの発達支援Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」 次長 金重 紅美子
令和6年10月10日	講義⑤「子どもの発達支援Ⅳ、Ⅴ」 次長 金重 紅美子
令和6年10月31日	講義⑥「地域支援システム」 信州大学医学部子どものこころの発達医学教授 本田 秀夫
令和6年11月13日	講義⑦「発達障害と就労準備性」 副主幹 堀内 由佳
令和6年12月19日	閉講式（修了証交付） グループ討議・発表「地域における支援課題と体制づくり」

Ⅱ 選択研修

- ・ 診察同席
- ・ インテークカンファレンス見学
- ・ 幼児集団療育プログラム（ころころグループ） 見学
- ・ 幼児集団療育プログラム（わくわくグループ） 見学
- ・ ペアレントサポートプログラム 参加
- ・ 養育セミナー 参加
- ・ 講義 「当センターにおける医療支援」
- ・ 講義 「心理検査の目的、内容、見方」
- ・ 講義 「幼児期の発達支援」
- ・ 講義 「学齢期の発達支援」
- ・ 講義 「成人期の発達支援」
- ・ 症例検討見学

2 技術支援

(1) 関係者コンサルテーション

医療、保健、福祉、教育、就労等の支援関係者への助言やコンサルテーション等を通じて、地域の環境調整や技術支援を行った。

(単位:件)

関係機関別						合計
保育所・幼稚園	大学 学校（小・中・高・大）	福祉関係機関 入所・通所施設	就労関係機関	行政機関	その他	
15	145	85	5	138	82	470

※上記の他に支援会議を 40 件実施。

(2) 市町村療育支援

母子保健従事者研修会（子育て政策課主催）においては参加実績なし。

(3) 発達障害者支援センター連絡調整会議

地域の発達障害児（者）に対する総合的なサービスを提供するため、関係機関（医療・保健・教育・福祉等）の取り組みや課題を共有し、効果的な連携等のあり方について協議した。

開催日	参加機関	協議事項
令和 6 年 6 月 3 日	60 機関	① 令和 5 年度事業報告及び令和 6 年度事業方針 ② 講義「発達障害と就労準備性について」 講師：こころの発達総合支援センター次長 金重 紅美子

(4) 地域支援体制サポート事業

発達障害者地域支援マネジャーを配置し、市町村、保育所、学校、障害者相談支援事業所等が発達障害（児）者の特性に沿った支援ができるよう、地域支援機能の強化を図った。

【発達障害者支援検討会議への参加】

各保健福祉事務所と連携し、圏域内の支援体制の整備を図るため、圏域やモデル市町村開催の会議に出席し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催とした地域に対しても技術支援を行った。

開催日	会議名
令和 7 年 3 月 3 日	富士・東部圏域 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築会議兼発達障害者支援検討会議（対面形式）

【発達障害者サポーターの養成・派遣】

- ・目 的：学校不適応などにより社会参加できていない発達障害のある人に対し、「発達障害者サポーター」を派遣し、社会参加・就労準備の機会を作る。
- ・サポーター養成対象者：山梨県内の教育、福祉、心理などを専攻している短大大学、学院生、または社会人で障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者
- ・サポーター派遣対象者：こころの発達総合支援センターの相談者で、相談相手を必要としている思春期から青年期ケースで当事業の必要性が認められる者
- ・実 績：サポーター養成（県内の教育、福祉、医療などを専攻している大学生等）
新規 6 人（大学生 6、男性 1、女性 5）
継続 6 人（大学生 5、社会人 1／男性 1、女性 5）
計 12 人（男性 2、女性 10）

・研 修:

(単位:人)

開催日	内容	講師	人数
令和6年 8月26日	「サポーター養成基礎研修」 ・講義「こころの発達と発達障害」 ・発達障害者サポーター事業について	こころの発達総合支援センター 次長 金重 紅美子	10
令和6年 12月20日	「サポーター養成事例検討会」 ・サポーター1名による事例発表 ・講師によるスーパーバイズ	スーパーバイザー 心理臨床オフィス・ルーエ 深沢 孝之 氏	3

サポーター派遣

当センターの学齢期後期から青年期ケース 3人

(5) 関係機関との連絡調整会議

当センター主催の会議において、情報交換や事例検討を行った。

【総合教育センター相談支援センターとの相談支援連絡会】

開催日	内 容
令和6年5月22日	令和6年度の計画、業務紹介、連携パスについて、施設見学
令和6年7月16日	〈学習会①〉 ・山梨県の特別支援教育の就学・進学制度について ・教育相談担当の相談業務について ・「通級による指導」効果発揮研修事業および指導の実際
令和6年10月2日	〈学習会②〉 こころの発達総合支援センターの相談支援・診療の待機期間短縮化にむけた取り組み～地域連携を中心に～
令和7年2月12日	年度のまとめ（アンケート）、令和7年度の日程および内容について、こころの発達総合支援センター新規相談の概況報告

【就労支援関係機関との相談・支援定例会議】

開催日	参加機関	内容
令和6年11月5日	9機関9名	(1) 講義 こころの発達総合支援センターの令和5年度 事業報告 (2) 質疑応答・情報交換

【子どもの心の診療に関わる医療と福祉の連携会議】

開催日	参加機関	内容
令和6年5月24日	8機関	情報交換と連絡調整

令和6年11月8日	7 機関	情報交換と連絡調整
令和7年3月14日	7 機関	情報交換と連絡調整

(6) 会議等への参加

【教育関係】

山梨県教育委員会より委員に委嘱され担当が会議に出席した。

開催日	会議名
令和6年5月24日	山梨県スクールソーシャルワーカー活用事業第1回運営会議
令和7年2月5日	山梨県スクールソーシャルワーカー活用事業第2回運営会議

【就労関係】

山梨県労働局の地域連携推進連絡会議に就労支援担当が出席した。

開催日	会議名
令和6年9月20日	令和6年度第1回地域連携推進連絡会議

【医療関係】

「子どもの心の診療ネットワーク事業」の会議に出席した。

開催日	会議名
令和6年7月4日	第27回 子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議
令和7年1月31日	第28回 子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議

【発達障害者支援センター関係】

全国及び関東ブロックの会議に出席した。

開催日	会議名
令和6年6月7日～8日（京都市）	発達障害者支援センター全国連絡協議会総会・実務者研修
令和6年6月8日（京都市）	第1回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
令和6年10月22日（Web）	第2回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
令和7年1月28日（Web）	第3回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会

※ 6月に開催された「発達障害者支援センター全国連絡協議会総会・実務者研修」において、「発達障害者のための地域支援体制整備」の演題で実践報告を行った。

研修・普及

1 人材育成

(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業

【診療対応力向上研修】（小児科医や精神科医等専門職を対象）

（単位：人）

開催日	内容	講師	人数
令和6年9月18日	学校における合理的配慮について～発達障害を中心に～	山梨県総合教育センター 副主幹・指導主事 若槻 洋貴 氏	27
令和7年1月24日	虐待を受けた子どもの行動特性への気づき	子どもの心のクリニック・テラ 小児科専門医・小児神経専門医 反頭 智子 氏	26

【子どもの心の総合支援研修】（子どもの心の診療に関わる専門職を対象）

（単位：人）

開催日	内容	講師	人数
令和6年9月18日	学校における合理的配慮について～発達障害を中心に～	山梨県総合教育センター 副主幹・指導主事 若槻 洋貴 氏	69
令和7年1月24日	虐待を受けた子どもの行動特性への気づき	子どもの心のクリニック・テラ 小児科専門医・小児神経専門医 反頭 智子 氏	98

【児童思春期精神医学専門研修】（精神科医、小児科医、関係専門職を対象）

・臨床研修、事業見学受け入れ

医学部学生、臨床研修医並びに小児科医の研修を受け入れた。

山梨大学医学部医学生：4名

計9日／年

臨床研修医：4名

計16日／年

山梨大学医学部小児科医：1名

月1回程度

山梨大学医学部社会医学実習4名

計8日／年

(2) 発達障害研修事業（発達障害児者の支援に関わる専門職を対象）

【家族支援研修会】

（単位：人）

開催日	内容	講師	人数
令和6年9月4日	講義・グループワーク・質疑応答 「自立のために大切なこと～家族支援のキーワード～」	ハーティック研究所 所長 高山 恵子 氏	17

【発達障害基礎研修】

（単位：人）

開催日	内容	講師	数
令和7年2月13日	症例検討 （学習困難事例）	上智大学言語聴覚研究センター 准教授 原 恵子 氏	48
令和7年2月20日	講義・質疑応答 「子どものことばの育ち・育てる視点」 オンラインライブ研修	上智大学言語聴覚研究センター 准教授 原 恵子 氏	26

【発達障害専門研修】

（単位：人）

開催日	内容	講師	人数
令和6年10月9日	講義（ハイブリッド研修） 「発達障害の方とのお付き合い」	一般社団法人日本発達障害ネットワーク理事長 医師 市川 宏伸 氏	82
令和6年11月1日	講義・質疑応答 「運動の不器用さのある子どもの理解と支援—発達性協調運動症」	慶應義塾大学 文学部 心理学専攻 准教授 北 洋輔 氏	39

【発達障害就労支援研修】

（単位：人）

開催日	内容	講師	人数
令和6年12月26日	発達障害児者に対する自立支援～子どもの育ちから就労支援について考える～	福) 子育て・発達の里ネスト plus コミュニティサポート・開発センター 中嶋 彩 氏	38

(3) 講師派遣

関係機関からの講師依頼を受け、当センタースタッフの派遣、又は、当センターにおける講義を実施した。

(単位：人)

分野	依頼元・派遣先	内容	形態	講師の職種	開催日	参加人数
教育	山梨県立富士見支援学校病理研修会	精神科的な課題を抱えた子どもの養育者への支援	派遣	医師	R6. 6. 12	20
	山梨県インクルーシブ教育推進事業に係る病弱連携特別支援連携会議研修会	てんかん発作！そのときどうする？	派遣	医師	R6. 6. 14	50
	インクルーシブ教育推進事業に係る第1回病弱専門部特別支援連携会議	精神科的な問題を抱える子どもの理解と対応	派遣	医師	R6. 6. 14	60
	中巨摩支部三者合同学習会	子どもの発達と脳のはなし	派遣	医師	R6. 7. 6	120
	山梨県総合教育センター相談支援センター	起立性調節障害	派遣	医師	R6. 7. 25	50
	山梨県高等学校・障害児学校教職員組合	白書教育のつどい YAMANASHI2024 パネルディスカッション「子どもの声を聴く」	派遣	医師	R6. 11. 17	100
	山梨県臨床心理士会学校臨床心理士委員会	こころの発達総合支援センターとの連携に関する講演会	派遣	心理士	R6. 11. 30	30
	都留市教育協議会保健研究会	子どもの発達支援と愛着形成	派遣	保健師	R7.1.21	20
医療	長野県小児科医会	神経発達症の相談支援・診療の待機期間短縮化に向けた取り組み	派遣	医師	R6. 5. 19	30

		～地域連携を中心に～				
	新潟県凸凹の会 講演会	神経発達症の相談支 援・診療の待機期間短 縮化にむけた取り組み ～地域連携を中心に～	派遣	医師	R6. 7. 26	30
保 健	山梨県看護協会 研究会	子ども虐待とその影響	派遣	医師	R6. 11. 7	20
福 祉	山梨県立甲陽学 園職員研修会	発達性トラウマ障害	派遣	医師	R6. 9. 11	20
	被害者支援セン ターやまなし	発達障害者の特徴と被 害者支援	派遣	精神保健 福祉士	R6. 12. 19	30
	山梨県強度行動 障害支援者養成 研修	医療との連携	派遣	医師	R6. 11. 20 R7. 3. 14	各回 30
	甲府市内グルー プホーム研修会	強度行動障害の理解	派遣	医師	R6. 11. 29	30
そ の 他	山梨県生涯学習 センター	大人の発達障害～自分 や周囲を守るために～	派遣	社会福祉 士	R6. 6. 27	73
	日本小児科学会 山梨地方会 子 どもの健康週間 市民公開講座	子どもの発達特性／発 達障害	派遣	医師	R6. 10. 19	100
	日本小児科学会 山梨地方会 子 どもの健康週間 市民公開講座	就学前のこころの発達	派遣	医師	R6. 10. 19	100

(4) 視察研修受け入れ

子どものこころサポートプラザ 4 施設の施設見学及び当センター単独の施設見学を各関係機関及び団体等からの依頼を受け、当センターの概要の説明と併せて実施した。

(単位：人)

開催日	団体名等	人数	説明職員	備考
R6. 5. 21	山梨大学医学系実習	2	1	センター単独
R6. 10. 3	千葉県中央児童相談所所長	1	1	
R6. 10. 11	峡北地区教育支援協議会・推進委員会 合同研修	20	1	
R6. 11. 18	笛吹市主任保育士視察研修	22	1	センター単独
R6. 11. 26	富士河口湖町教育協議会保健研究部会	11	1	センター単独
R6. 12. 2	こども家庭庁児童福祉専門官	1	1	
R6. 12. 26	山梨県庁しごと紹介セミナー2024	8	3	

2 調査研究

「令和 6 年度山梨県社会福祉研究発表会」及び「令和 6 年度山梨県公衆衛生研究発表会」において、次のテーマに関する調査研究を行い発表した。

○発達障害児者支援における市町村の現状と当センターにおける支援体制の方向性の検討

発達障害児者を専門的に実施する支援機関が少ない本県においては、ニーズが多様化する中で当センターに相談が集中している。そのため、相談などの直接支援への対応が業務の多くを占める状況になっており、幅広く県内全体を支援するための間接支援が十分になされず、発達障害者支援センターとしての機能が十分に発揮出来ていない。そこで、市町村における発達障害児者支援の現状について調査し、当センターが実施すべき事業を見直し、支援の方向性を明らかにすることとした。

○こころの発達総合支援センターにおける過去 5 年間の新規相談者の変遷に係る検討

相談状況の傾向を把握し、当センターにおいて注力すべき課題を検討することを目的として、2019 年度～2023 年度の新規相談者に係る相談時の年齢や相談主訴等についての分析を行った。いずれの年度も小学生年代の相談が多い傾向にあり、年度間で多少のばらつきがあるが、学習困難と不登校を主訴とする相談が 1 割～2 割程度であった。合計相談件数と学習困難を主訴とするものについては、統計的な有意差はないが正の相関関係にあり、合計相談件数と不登校を主訴とするものについては、正の相関関係にあり有意差も確認された。小学校入学を契機に学校不適応等により相談につながるケースが多いと推察されたため、入学前の気づきの場として、5 歳児健診を中心とする支援環境の整備や学習困難に特化したプログラムの導入について検討していく必要性が示唆された。

3 広報・普及

(1) パンフレットの作成等

こころの発達総合支援センターのホームページにおいて、災害時の発達障害児(者)への支援のためのリーフレットを公開し、情報発信を行った。

(2) 図書及び視聴覚教材の貸出

【図書】

平成23年4月より、主に保護者や関係機関の職員、学生等を対象に図書の貸し出しを行っている。

全蔵書数は660冊であり、令和6年度の貸出実績は延べ36冊であった。

(単位：冊)

1 分類	概論・事典・法律・医療	149
2 分類	支援・指導・教育	226
3 分類	就労	8
4 分類	心理・アセスメント・診断	71
5 分類	雑誌	0
6 分類	発達障害支援 他	36
7 分類	絵本・読みもの・自伝	153
都留クリニック		17
合計		660

月別貸出数

(単位：冊)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2	8	3	0	0	0	1	2	5	1	9	5	36

【視聴覚教材】

発達障害関連DVD 14 本